

巻頭
言

新型コロナウイルス感染症は人災

| 会長 山崎 學



お盆休みの最中に第五波が襲来し、感染患者数は連日記録更新を続けている。緊急事態宣言の効果も限定的で厚生労働省も打つ手なく、手をこまねいている感がある。マスクミは馬鹿の一つ覚えのように医療逼迫を取り上げて国民の不安を煽ることに余念がない。

2019年10月中国武漢で発生したと思われる新型コロナウイルス感染症は蝙蝠由来のヒト感染と考えられていたが、ウイルスの遺伝子配列に人為的操作の跡があるという学者もいて本当のところは藪の中である。テドロス・アダノムが事務局長を務めているWHOは中国の意を汲んで「ヒト-ヒト感染の証拠はない」と喧伝し、厚生労働省も同じ見解を発表していた。しかし急速な感染拡大によって、その見解は否定されることになった。

我が国でも2020年2月横浜港に寄港したダイヤモンド・プリンセス号に対して水際作戦と称して乗員乗客を船内隔離し、多くの船内感染者を出すことになった。その後第一波が襲来し、全国的に感染が広がった。この段階で在宅療養に限界があると考えてホテル療養の確保を政府に進言した。交通網の発達した現在では、感染は貧富の差に関係なく燎原の火のごとく燃え広がり、多くの犠牲者を出している。しかし一方では経験則による治療の幅が広がり、発生当初の手探り状態からいくつかの治療の選択肢が出てきている。

第五波真っ最中の我が国でもワクチン2回接種を済ませた高齢者の重症化例は少なくなり、ワクチン未接種の50歳以下の感染と重症化が大きな問題になってきている。オリンピック・パラリンピックを開催するならばワクチン接種はもっと敏速に行わなければならなかった。ワクチン確保に後れをとり、ワクチンが届いたところで打ち手不足に悩まされ、人材派遣会社から日給15万円の求人メールが届く。まったく馬鹿げた話である。日本精神科病院協会ではワクチン接種を会員病院が積極的に協力する旨の申し出を行ったがなしのつぶてであった。思いついたように頭ごなしに防衛省技官に接種を依頼し、集団接種の足りない部分は人材派遣会社に丸投げ、ロジスティックスは暇を持て余している旅行者にこれも丸投げと、医療に金を惜しむくせにこんなときだけ大盤振る舞いとは腹が立つ。

病床使用率が上がることを恐れて中等症までは酸素ボンベを持ち込んで在宅療養と勝手に決める。数時間で急変する中等症の患者を在宅療養にするのはしょせん無理な話で、仮に急変しても保健所に電話がつかないし、幸運にして電話がつかっても病床がすぐに見つかるとは限らない。この時点ですでに命のトリアージは始まっていると見受ける。

ワクチン接種も任意でなどとたわごとを言っている暇はない。一日も早くワクチン接種を義務づけるべきである。二類感染症に任意もへったくれもない。日本医師会員、非会員含めて医師を生業としている者を総動員して、可及的速やかに国民全員接種を行わなければならない。